

浜田駅周辺地区

(島根県浜田市)

- 計 画 期 間 平成 18 年～21 年
- 面 積 47.4 h a
- 交付対象事業費 2,230 百万円
- 市人口 60,750 人 (地区内人口 1,326 人)

ポイント 浜田駅南北の一体性を高め、賑わいと魅力あるまちづくり

地区概要 既存の公共施設を活かしつつ、自由通路整備等の基幹事業により、浜田駅南北の一体化を図るとともに、提案事業による駅舎整備を行い、賑わいと魅力ある都市の再生を図る。

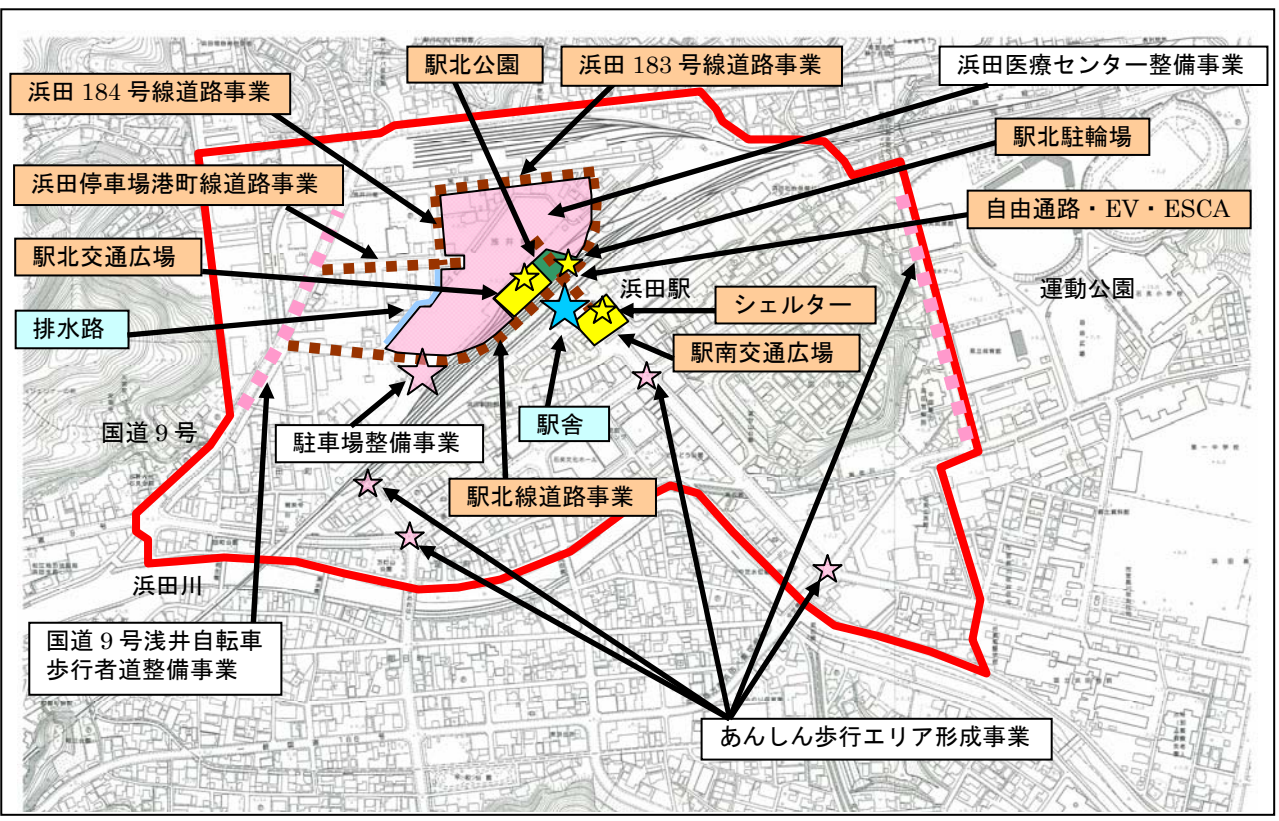
目 標 浜田駅周辺地区における大規模低未利用地を活用した浜田医療センターの移転新築に併せ都市基盤整備を行うことにより、JR山陰本線で分断された駅南北市街地の一体性を高め、本地区の利便性の向上及び賑わいと魅力を高める。

指 標 駅南北市街地の一体化等による住民の利便性の向上を図ると共に、高齢化社会等に対応したバリアフリー化による、安全で快適なまちづくりとなる指標とした。

項 目	現況値	(年)	→	見込み値	(年)
移動時間の短縮	14 分	H17		3 分	H21
駅南北の一体化	702 人	H17		1,500 人	H21
交通事故件数	14 件	H16		10 件	H21

事業内容 **基幹事業** (1,993 百万円) →道路 (幅員 8m~15m、延長 989m)、公園 (1ヶ所 1,200 m²)、交通広場 (2ヶ所 3,500 m²) 駐輪場 (1ヶ所 50 台) シェルター (5ヶ所) 自由通路 (幅員 3m~5m、延長 87m、EV 2ヶ所、ESCA 2ヶ所)

提案事業 (237 百万円) →駅舎 (2階建て、市民サロン、トイレ、物販施設)、排水路 (126m)



地区の現況と課題

商業・業務の中心として栄えてきたが、JR貨物ヤードの廃止、スーパーの移転等により、賑わいが失われつつある。浜田駅北側の有効な土地利用とJR山陰本線で分断されている浜田駅南北市街地の一体化が最大の課題である。

提案事業の特徴

浜田駅及びその周辺のかつての賑わいと魅力を取り戻すため、南北自由通路の整備に併せ、駅舎の建て替えを行い、休憩所を兼ねた誰もが利用しやすい市民サロン等を整備し、賑わいと魅力の創出を図る。まちの玄関となる駅舎は、「浜田駅南北自由通路及び駅舎整備検討会」を設け、市民と一緒に計画を策定した。特産品である石州瓦を使用した和風デザインの親しみの持てる建物とした。

また、浜田駅舎と医療施設を自由通路で結ぶ計画としたことから、利便性の高い、全国的にも珍しい駅舎となる。

更に、愛される駅舎にするため、市民から提案を受け、愛称を募集し、「どんちっち浜っ子ステーション」に決定した。

計画策定プロセス

「中心市街地活性化基本計画策定検討委員会」及び「浜田駅南北自由通路及び駅舎整備検討会」を設置し、意見を求め計画に反映している。「中心市街地活性化推進検討委員会」を定期的に開催し、継続して事業の検討や検証を行っている。

浜田市が「浜田駅周辺地区まちづくり交付金事業」により整備する公共スペースをライオンズクラブがアダプトし、市民参加型の記念事業を展開する。また、浜田医療センターの職員等から、工事現場周辺の暗く、さびしいイメージを払拭し、浜田駅周辺を明るいイメージにするため、イルミネーションによる夜間景観の創造が行われた。更に、駅前の商店街振興組合も平成20年末からイルミネーションの点灯を始めた。

浜田市長のコメント

長年の課題であった浜田駅北側の土地利用が浜田医療センターの移転新築に決定し、財政難ではあったが、まちづくり交付金の採択を受け、事業に踏み切った。計画策定に当たっては、各種団体等の要望、提案を受け、できるだけ取り入れた計画としている。特に医療センターへ直接繋がる南北自由通路の整備は、周辺及び圏域住民の期待も大きく、意義深いものがあつたと喜んでいる。完成まで数ヶ月となり、周辺の土地利用も変わりつつある。これを機に市街地及び浜田市全体の活性化になると期待している。

浜田市連合自治協議会長のコメント

浜田駅周辺地区まちづくり交付金事業実施のために設置された各委員会に参加し、様々な意見を交わした。当初計画されていなかった、浜田駅舎へのエスカレーターの設置や浜田駅から浜田医療センターへ直接行ける通路の整備等、ユニバーサルデザインの観点から強く要望し、結果的に計画に取り上げられ大変喜んでいる。住民のアダプト活動の動きがあるとも聞いている。今後も住民参加のまちづくりが実施されることを切に願っている。

全体完成予想図



整備前



整備中



駅舎完成予想図



整備中



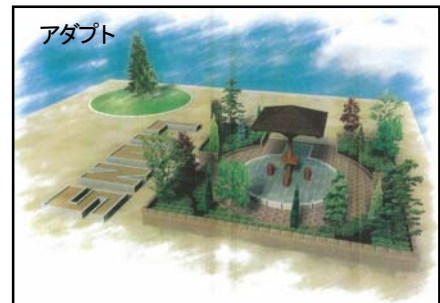
整備中



委員会状況



アダプト



アダプト

